

2010年11月15日

2010年度 第1回 日本スナイプ協会理事会議事録

書記 栗原

開催 日時 : 2010年11月13日 16:00~19:00
開催 場所 : 長崎市サンセットマリーナ 会議室

1. 出席者確認 : 議決権総数22:出席15 委任7 規約により理事会成立とする。

2. 議事

(1) 北海道水域の理事交代

佐藤さん→野呂さん 全員一致で承認。

(2) 2011年度全日本大会の日程

① 全日本スナイプ 東北水域川村理事より、10月6日~10日、宮城県ゆりあげヨットハーバーで行う旨の提案があったが、関東水域インカレ予選と重複しており、これを回避すべく日程の再調整をする事となった。

② マスターズ・女子 中国水域が立候補、①9月10日~11日または②9月3日~4日の間、広島市観音マリーナで行うことで承認された。
日程は①または②のどちらかにするか、栗原副理事長が調整する。

③ ジュニア 2011年のJSAF行事予定に組み込まれるか否か、2010年12月に決定する。この結果を白石理事から事務局に連絡する。
OKの場合は3月23日~27日に行う。
NGの場合は、5月~8月の関東、中部の大会に抱き合わせ実施。
大会名称をU22などの、社会人も参加可能な事を表現する。

(3) 2011年度の国際大会

①世界選手権 8月6日~13日の間、デンマークのRungstedにて行われる。
今年の全日本スナイプ級ヨット選手権大会の上位8チームに参加権を与える。

②ジュニア 世界選手権と同じ場所で、8月1日~5日の間で行われる。

(4) 2012年度の国内大会

① 全日本スナイプ 中国水域が開催担当。鳥取県境港市での開催を本命として中国水域の森本理事が関係先と調整する。

② マスターズ・女子 蒲郡を本命で調整する。中部水域の西村理事が担当。

③ ジュニア 3月に和歌山で開催。ジュニア強化の白石理事が担当。

(5) 2013年度の国内大会

① 全日本スナイプ 北海道での開催を検討中、結果を2011年2月の理事会で北海道

水域理事より報告いただく。

(6) ルールブックの販売

和訳版 500部が完成した。販売価格は2,500円/冊とする。

各水域理事より必要数(会員への直接販売、ヨット要具の販売店の合計)を事務局に連絡し、桑野理事長から各水域理事に発送する。

注文数はMin. 10冊/水域。代金は年内に事務局に振り込む。

(7) ワールドの日本開催(桑野理事長)

SCIRAからの日本開催の要望強く、2015年頃には行う必要がある。

ジュニアを除外した、ワールドを2015年、または、2014年にマスターズを九州水域で行う方向で具体化作業に入りたい。

自薦があった、和歌山での開催は費用集め、チャーター艇の手当てが困難であり、断念せざるを得ない。(桑野理事長)

まずは、開催可能と思われる九州水域におけるチャーター艇の確保可能性を調査してゆくが、SCIRA要望(29000番台以降)は対応困難であり、出きる事とそうでない事をSCIRAに明確に示しながら、具体化交渉を進める。

また、SCIRAのHPによると、2012年以降の西半球選手権開催地は未定であるが、2年毎の各大会の候補地として日本が必ず挙がっている。

(8) 会計中間報告(吉留事務局長)

中間報告書の配布があったが、収入については新艇登録4艇分が追加収入になる見込み。また、SCIRA登録も若干名分増える。

さらに、JSAF環境キャンペーン交付金の10万円も追加となるが、これは全日本大会開催地(長崎)ではなく、事務局に入る。

前年に比べ、収支が改善されているが、計測収入増加と円高が貢献した。

(9) 2010年西半球選手権の遠征報告(白石理事)

西半球選手権の自艇参加チームに対してのSCIRA役員のカンパに感謝。

コンテナ運搬費が150万円かかったが、これの一部に充当した。

今回の自艇参加チームへのカンパに対しては、種々意見があったが、結果として日本スナイプ協会の役員がカンパという形で団結ができた。この風土を大切にしたい。

ジュニアチームはJSAFオリ特の補助金、出身チームの支援などで本人負担は殆ど無く遠征できた。

関係各位に感謝すると共に、資金面で海外遠征を躊躇しているチームは思い切ってスナイプ協会に相談して欲しいし、これに応えるような組織にしたい。

(10) 2010年SCIRA理事会(@カナダ)報告(内田理事)

2012年西半球選手権は南米に決定した。アルゼンチンが有力。

日本に対する世界選手権大会の開催ニーズは高い。

(11) 艇番のオンライン登録

SCIRA本部より既決定済みの艇番変更の要請があった。

原因はSCIRA本部のデータベースが上書き可能になっており、重複登録をされていた。

セール番号の張替え、艇体の刻印修正、計測証明書の再発行が必要になるが、この費用はまずは、日本スナイプ協会が負担する事に決定した。

この事情を各水域理事が該当艇のオーナーに説明するための文書を栗原副理事長が11月末までに作成する。

セール番号の修正はノースセールにて行うが、若干の接着剤は残ってしまう事はオーナーに了解していただくを得ない。

艇番の修正は新しい番号を刻印したプレートを製作して各水域理事に配布、それを各オーナーが艇に固定（リベット固定や、エポキシ樹脂で接着など）いただく。

最終的に各水域理事が確認作業を行う。

スナイプ協会のHPに本件を簡潔に紹介する。

(12) 2010年度 第2回理事会

2月6日 10:00～ 刈谷市にて行う案はあったが、本日の会議で殆どの重要案件が決定したので、経費節減のため、正規の理事会は中止し、メールでの情報交換でこれに代える。 2010決算書、2011予算書は各役員に郵送する。

(13) 計測について（百済理事）

最近の計測ルールの変更点紹介があった。

セール計測の変更（クリングル基点→セール端部）

バウラインの規定（従来は6mmであった直径を8mmに変更、色はオレンジ又は赤を指定）

(14) 2011年度のデコール数量

各水域理事が、必要数量を11月末までにメールで事務局に申請する。

(15) 会員登録の確認方法

カード配布、オンライン検索など種々の方法の中から井田理事が検討中。

会員や各水域理事の手間を掛けずに迅速に確認できる方法を考える。

2011年2月までに事務局で対応案をまとめ、各理事にメール配信する。

(16) 2011年度の全日本スナイプ開催に向けた支援要請（川村理事）

金品の提供や、折衝相手の紹介など、何でも良いので川村理事へ情報提供下さい。

(17) JSAF理事立候補者への推薦

スナイプ協会監事の斎藤渉氏より、JSAF理事任期満了に伴う2011-12年度理事選挙への推薦要請があったので、これを認めることとした。

斎藤氏は現在、JSAFにおいて会計担当、ジュニアアカデミー委員会などを担当されている。スナイプの国体種目復活に向けたロビー活動へより一層の注力をお願いする事とした。